

応用ミクロ経済学 A

鈴木 豊

管理 ID: 1403390
授業コード: X3021

【授業のテーマ】

「応用ミクロ分析」への活用を念頭に置いて、「契約理論 (Contract Theory)・ゲーム理論 (Game Theory)」を講義する。前半は次のトピックを取り扱う。

- (I) 不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
- (II) プリンシパル=エージェントの理論:モラルハザード
- (III) プリンシパル=エージェントの理論:アドバースセクション

【授業の到達目標】

受講生は、「契約理論・ゲーム理論」の考え方・分析の仕方を修得し、「応用ミクロ分析」に積極的に活用して、修士(博士)論文の執筆に生かせるようになることが期待される。

【授業の概要と方法】

黒板を使つての講義授業。教員の説明を聞きながら学生がノートを取り、理解して行くという伝統的スタイルで行われる。もちろん、説明を繰り返し、黒板で図を使い、レジュメなども配って学生の理解を助ける工夫は出来るだけする。

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第 1 回	不確実性と情報の経済学①	不確実性とくじ、期待効用最大化仮説、リスク態度 (リスク回避、リスク中立、リスク愛好)
第 2 回	不確実性と情報の経済学②	期待効用最大化とその使い方、最適化の 1 階条件、リスクプレミアム
第 3 回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	エージェンシー理論の導入、固定給とモラルハザード (Moral Hazard)
第 4 回	モラルハザード②	歩合給とインセンティブ効果、インセンティブスキームの直観的説明
第 5 回	モラルハザード③	簡単なエージェンシーモデルの解 (リスク中立的エージェント)
第 6 回	モラルハザード④	インセンティブ契約の数学モデル (リスク回避的エージェント)
第 7 回	複数エージェントの理論①	チーム生産①ナッシュ均衡、支配戦略均衡とフリーライダー現象
第 8 回	複数エージェントの理論②	チーム生産②フリーライダー問題を解決する仕組み。ペナルティスキームなど。
第 9 回	オークションとゲーム理論①	ゲーム理論の解概念の確認：支配戦略、弱支配戦略、被弱支配戦略の繰り返し削除など
第 10 回	オークションとゲーム理論②	セカンド・プライス・オークション
第 11 回	オークションとゲーム理論③	ファースト・プライス・オークション
第 12 回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セクション①	逆選抜 (Adverse Selection)
第 13 回	アドバース・セクション②	逆選抜を解決する仕組みとしての自己選抜メカニズム①導入
第 14 回	アドバース・セクション③	自己選抜メカニズム②展開
第 15 回	アドバース・セクション④	自己選抜メカニズム③応用

【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業内容 (授業ノート) および配布資料の理解と確認をその都度行っていくこと。その他詳細は授業内で指示する。

【テキスト】

特に指定しない。授業の中で、レジュメや参考資料の配布、参考文献の指示を行う。

【参考書】

- ① マクミラン『経営戦略のゲーム理論』(伊藤, 林田訳) 有斐閣
- ② ミルグロム+ロバーツ『組織の経済学』(奥野, 伊藤他訳) NTT 出版
- ③ ラジアー『人事と組織の経済学』(樋口, 清家訳) 日本経済新聞社
- ④ Bolton and Dewatripont, Contract Theory, MIT Press
- ⑤ 鈴木豊 情報経済論 web site
<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yutaka/jouhou.htm>
- ⑥ 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣
- ⑦ 鈴木豊 (監修)『ズバリ図解 ゲーム理論』ぶんか社文庫
- ⑧ 鈴木豊 (編)『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010 年

【成績評価基準】

中間試験による。ただし、レポート (1 回) を課すこともありうる。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

一部の数学的手法につまずき、あるいはそこに気を取られすぎ、全体像の理解、本質的アイデアの理解に近づけない学生もいるので、説明はできるだけ分かりやすく、あるいは繰り返し行うように心がけたい。またレポート (宿題) は、理解を定着させ、色々な応用例を考えさせるうえで役に立つので、適切に利用したい。

【担当教員の専門分野等】

ミクロ経済学、契約理論、ゲーム理論、企業の理論、制度の契約理論的分析など



応用ミクロ経済学 B

鈴木 豊

管理 ID: 1403391
授業コード: X3022

【授業のテーマ】

前半の続きを講義する。トピックは次の通りである。

- (IV) 不完備契約 (Incomplete Contracts) と企業理論
- (V) 関係的契約 (Relational Contracts) の理論とその応用
- (VI) 新しい方向：行動ゲーム理論と契約理論

【授業の到達目標】

受講生は、「契約理論・ゲーム理論」の考え方・分析の仕方を修得し、「応用ミクロ分析」に積極的に活用して、修士(博士)論文の執筆に生かせるようになることが期待される。

【授業の概要と方法】

前半箇所を参照。

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	不完備契約：ホールドアップ問題①	関係特殊の投資とホールドアップ問題①導入と基本モデル
第 2 回	不完備契約：ホールドアップ問題②	関係特殊の投資とホールドアップ問題②モデルの一般化
第 3 回	不完備契約：ホールドアップ問題③	関係特殊の投資とホールドアップ問題③外部機会、交渉形態など
第 4 回	不完備契約：「資産所有 (財産権)」アプローチ①	グロスマン+ハート+ムーアの「資産所有 (Asset Ownership)」アプローチ①基本モデル
第 5 回	不完備契約：「資産所有 (財産権)」アプローチ②	グロスマン+ハート+ムーアの「資産所有 (Asset Ownership)」アプローチ②応用と展開
第 6 回	不完備契約：権限配分、権限委譲	アギオン+ティロールの「組織における権限配分、権限委譲」のモデル
第 7 回	不完備契約：統合 vs 非統合、集権化 vs 分権化	ハート+ホルムストロムの「企業範囲 (Firm Scope)」の理論とその応用
第 8 回	不完備契約：金融契約①	アギオン+ボルトンの「状態依存型コントロール」のモデル
第 9 回	不完備契約：金融契約②	アギオン+ボルトンのモデル：企業統治への応用
第 10 回	関係的契約①	基礎原理：「繰り返しゲーム」と「トリガー戦略」
第 11 回	関係的契約②	企業間の関係的契約：トヨタ流の長期的協調関係の構築によるホールドアップ問題の解決
第 12 回	関係的契約③	企業内の関係的ボーナス
第 13 回	関係的契約④	Self-enforcing Contracts
第 14 回	行動ゲーム理論①	コース、ノース、ウィリアムソンと「コミットメント問題」
第 15 回	行動ゲーム理論②	最後通牒型交渉ゲーム：理論と実際 不平等回避モデル、互恵性モデル

【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業内容 (授業ノート) および配布資料の理解と確認をその都度行っていくこと。その他詳細は授業内で指示する。

【テキスト】

特に指定しない。授業の中で、レジュメや参考資料の配布、参考文献の指示を行う。

【参考書】

- ① Hart, O "Firms, Contracts, and Financial Structure" (Oxford University Press) オリバー・ハート 『企業・契約・金融構造』 (鳥居訳) 慶応大学出版会
- ② ミルグロム+ロバーツ 『組織の経済学』 (奥野, 伊藤他訳) NTT 出版
- ③ 鈴木豊 情報経済論 web site
<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yutaka/jouhou.htm>

- ④ Bolton and Dewatripont, Contract Theory, MIT Press
- ⑤ 岡田章 『ゲーム理論・入門』 有斐閣
- ⑥ 鈴木豊 (監修) 『ズバリ図解 ゲーム理論』 ぶんか社文庫
- ⑦ 鈴木豊 「日本企業のコーポレートガバナンス」をゲーム理論で解く—企業間取引関係と内部組織改革— 『ゲーム理論で解く』 (中山・武藤・船木編) 有斐閣
- ⑧ 鈴木豊 (編) 『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』 法政大学出版局 2010 年

【成績評価基準】

期末試験による。ただし、レポート (1 回) を課すこともありうる。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

一部の数学的手法につまずき、あるいはそこに気を取られすぎ、全体像の理解、本質的アイデアの理解に近づけない学生もいるので、説明はできるだけ分かりやすく、あるいは繰り返し行うように心がけたい。またレポート (宿題) は、理解を定着させ、色々な応用例を考えさせるうえで役に立つので、適切に利用したい。

【担当教員の専門分野等】

ミクロ経済学、契約理論、ゲーム理論、企業の理論、制度の契約理論的分析など